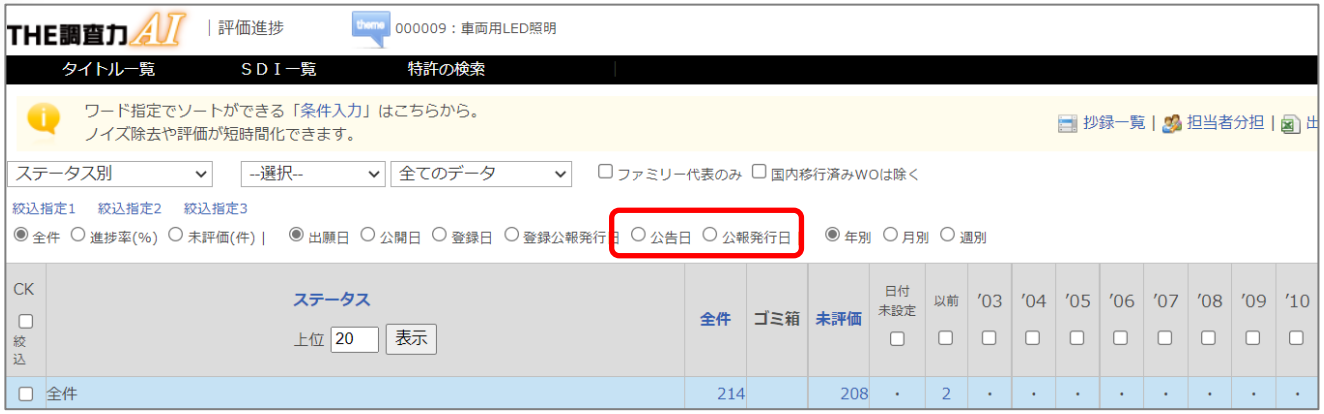
2022年４月

THE調査力 Ver3.5
「THE調査力AI」
バージョン情報

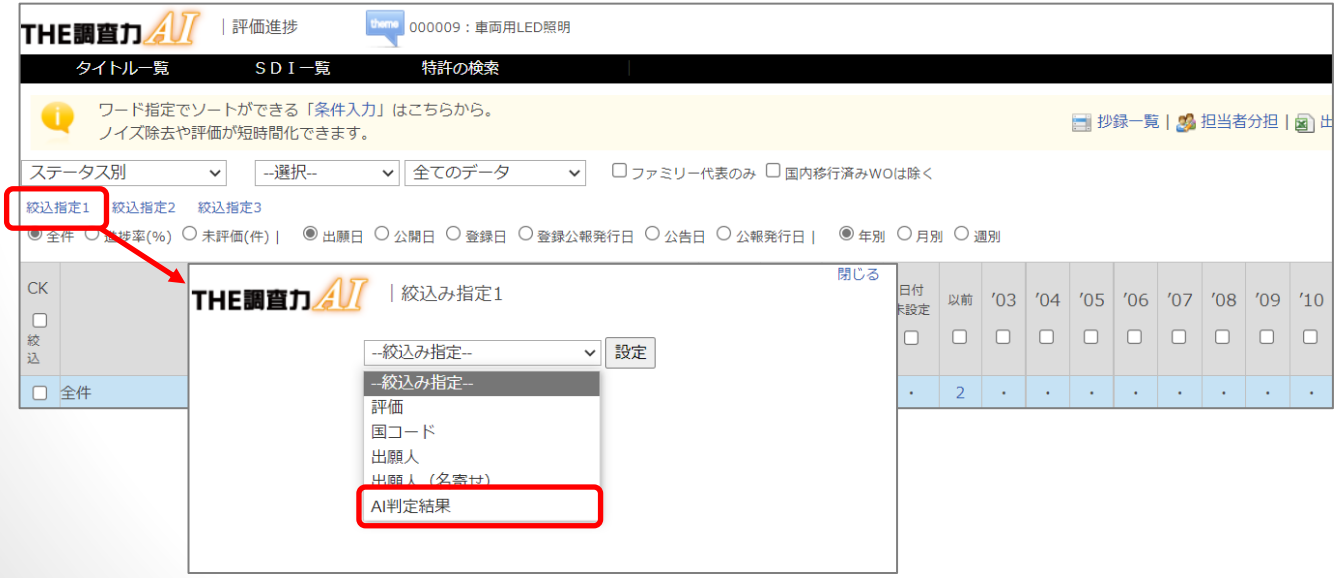
アイ・ピー・ファイン株式会社

評価進捗　～横軸、絞込指定に項目追加

横軸に「公告日」「公報発行日」を追加しました。



絞込指定(1～3)に「AI判定結果」を追加しました。



評価進捗　～AI設定時の1行選択、1列選択

「AI判定を使う」にチェックを入れ、サーチ教師、ノイズ教師、判定特許を指定する際、
行項目、列項目のチェックボックスを選択することで、行選択、列選択ができるようになりました。

行選択を行う場合

列選択を行う場合

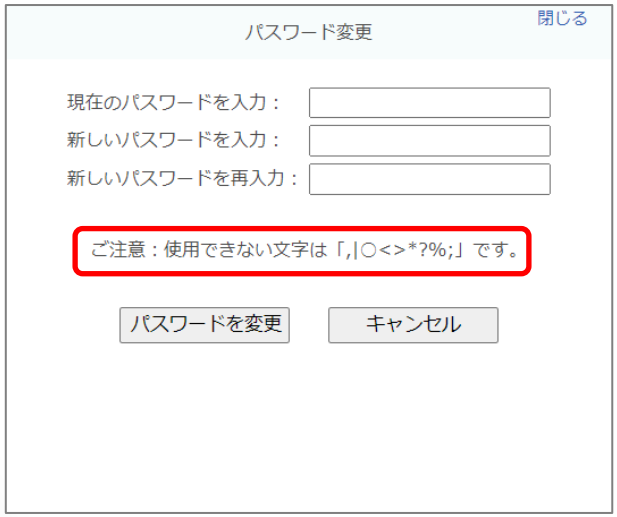
※チェックを外すと選択が解除されます。
※従来どおり、個々の数字をクリックして 選択／非選択 にすることもできます。

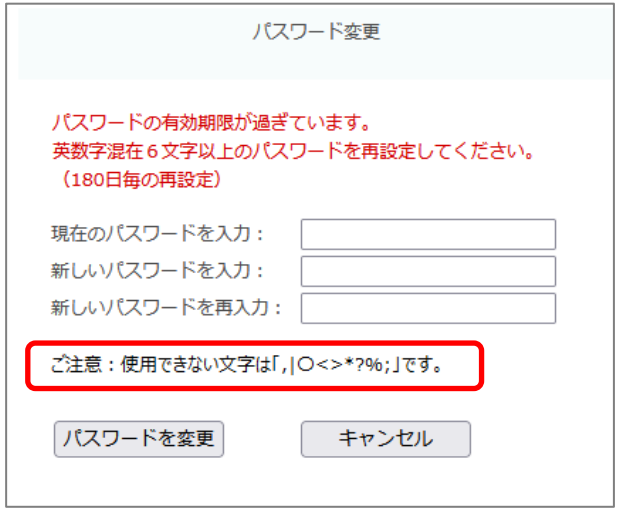
ユーザID、パスワードの禁止文字　～各画面に明記

ユーザID、パスワードで使用できない文字をそれぞれの設定画面に明記しました。

①ユーザ管理

②パスワード変更





利用者一括設定　～タイトルの絞込み表示

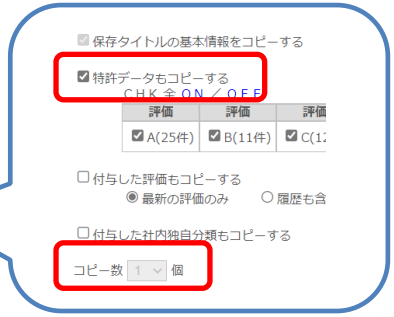
利用者の一括設定画面において、タイトルの絞込み表示ができるようになりました。

タイトルの複数コピー

タイトルの基本情報のみをコピーする時、コピー数が指定できるようになりました。（1～10個）

※コピー元タイトル名が「〇〇〇」の時、コピータイトル名は、
「コピー ～ 〇〇〇（１）」
「コピー ～ 〇〇〇（２）」
「コピー ～ 〇〇〇（３）」
⋮
となります。

※「特許データもコピーする」の場合は、コピー数は「１」固定です。
この場合のコピータイトル名は、「コピー ～ 〇〇〇」です。



ゴミ評価の表示　～評価履歴とPDF出力

「ゴミ箱へ」を評価「ゴミ」に統一しました。

①評価履歴

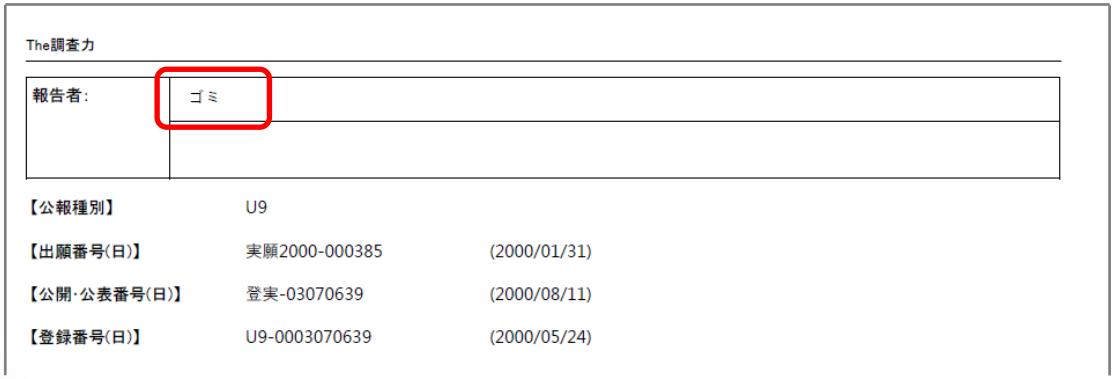
THE調査力AI | 評価履歴 出力

	最新		No.	確定	状態	評価	評価説明	評価者	評価日	評価理由
	*		2		登録	ゴミ箱へ		特許花子	2022/03/30	
削除			1		登録	C	評価３	特許太郎	2022/03/30	

THE調査力AI | 評価履歴 出力

	最新		No.	確定	状態	評価	評価説明	評価者	評価日	評価理由
	*		2		登録	ゴミ		特許花子	2022/04/04	
削除			1		登録	C	評価３	特許太郎	2022/04/04	

②PDF出力（抄録印刷）



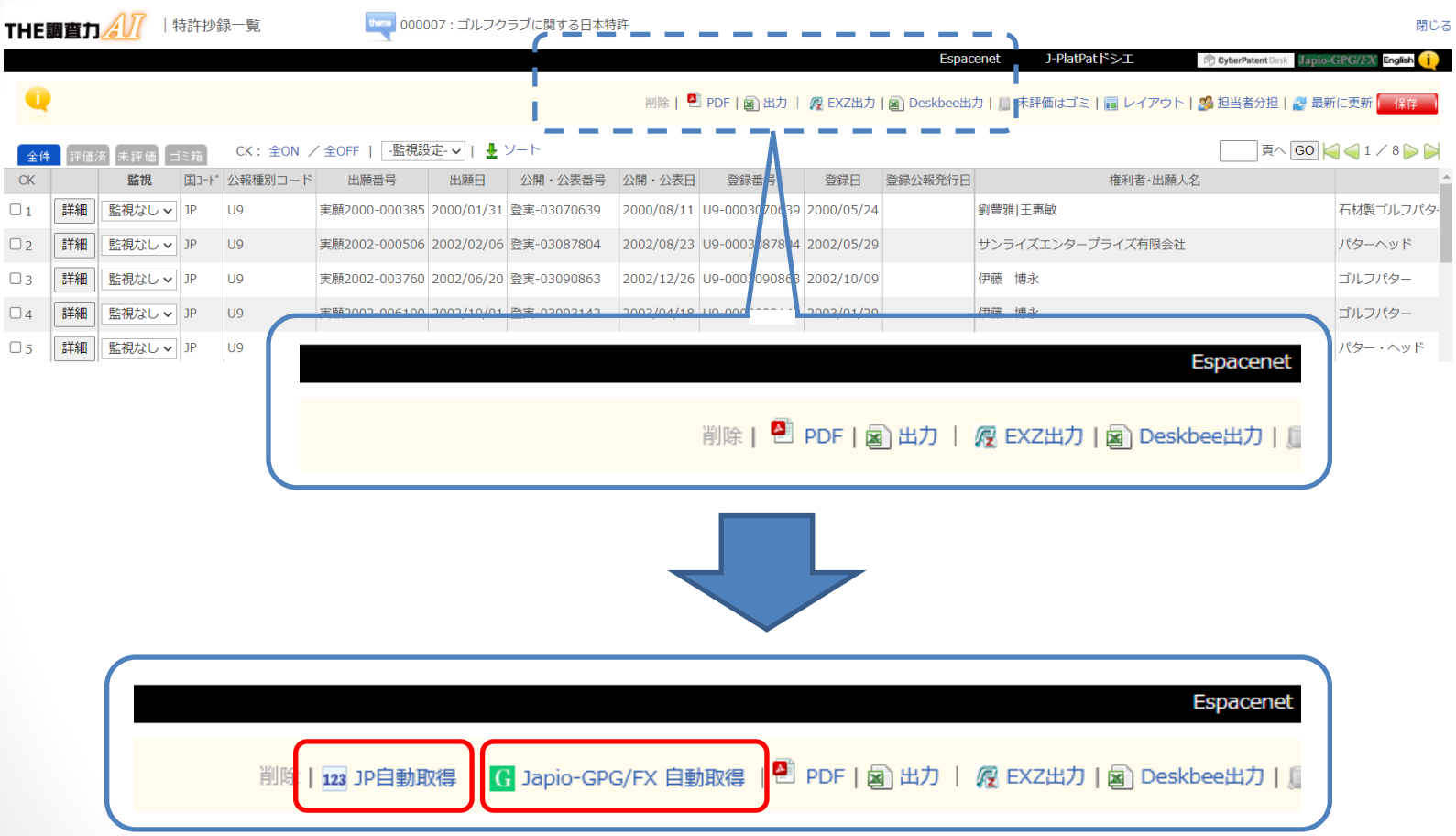
The調査力

報告者:	ゴミ

【公報種別】	U9	
【出願番号(日)】	実願2000-000385	(2000/01/31)
【公開･公表番号(日)】	登実-03070639	(2000/08/11)
【登録番号(日)】	U9-0003070639	(2000/05/24)

自動取得リンクボタンの追加　～特許一覧画面

特許抄録一覧「特許一覧形式」画面にも、「JP自動取得」「Japio-GPG/FX 自動取得」の両ボタンをご用意しました。



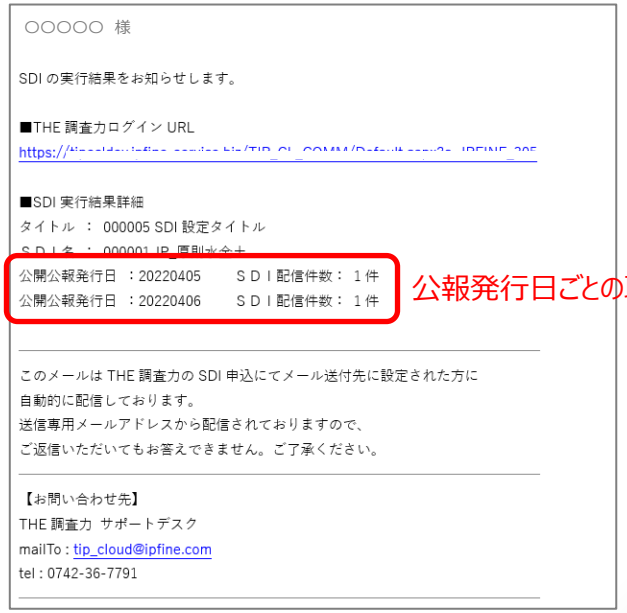
２つの自動取得リンクを追加

SDI配信メール　～すべての配信サイクルでメール配信を可能に

特許庁の公報システム刷新に伴い設定された、THE調査力のSDI配信サイクル「原則水金土」では、
メール配信を行わないとしておりましたが、配信サイクルに関係なくメール配信を行えるよう変更しました。

配信サイクル「原則水金土」でも配信メール送信先が設定可能

配信サイクル「原則水金土」の場合、公報発行日ごとのメール配信ではなく、処理日ごとのメール配信となります。
公報発行日２日分を同時に処理（取得）した場合、メールは１通とし、メール内本文に公報発行日ごとの取得件数を記載します。

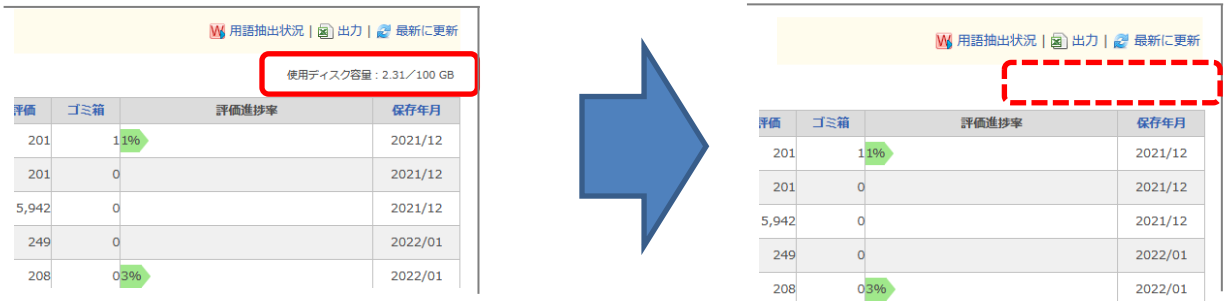


公報発行日ごとの取得件数

使用ディスク容量無制限化に伴う表示の廃止

イメージデータ（公報や図面）の格納先を新しいオブジェクトサーバ「wasabi」に変更することにより、
使用ディスク容量の大幅な削減が実現いたしました。

ご利用者様にも、容量を意識することなく、快適にご使用いただけるよう、タイトル一覧の右上に表示されていた、
ご契約容量に対する現在の使用容量「使用ディスク容量」の表示を廃止いたしました。



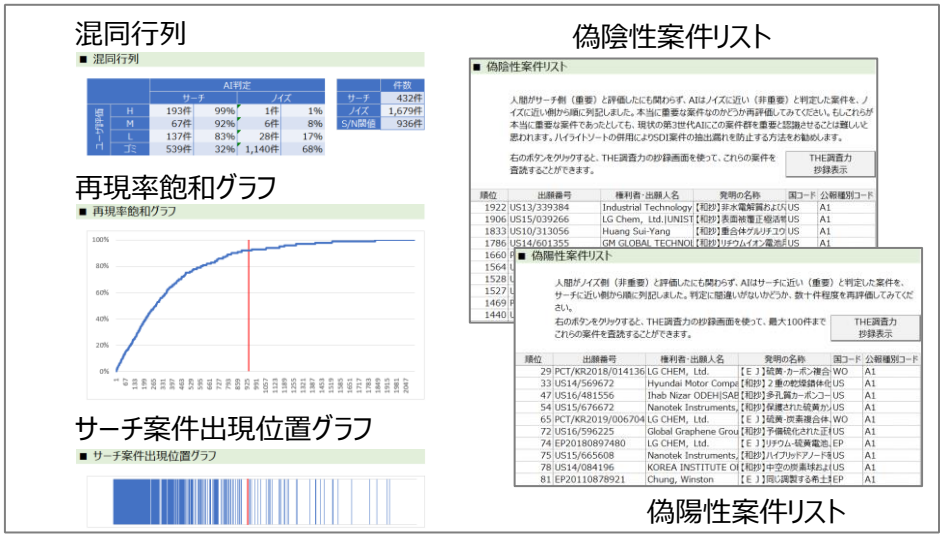
評価品質自動検証　～概要

AI判定機能（オプション）に「評価品質自動検証」機能を追加しました。

一度評価が終わると、再度見直しをすることはほぼ無理であると思われますが、ＡＩを活用することで
その見直しが可能となります。

「評価品質自動検証」機能では、k分割交差検証法(17ページ以降参照)を使ってAI判定し、再評価
すべき特許を明確にします。
これにより、見落とし、評価揺れ、分担評価者の評価ずれを再確認して補正することが可能になります。

評価品質自動検証の結果例（Excel）



【動作保証】
OS:Windows10、Windows11
Excel:Office365(32bit、64bit)

「評価品質自動検証」ではExcelのマクロを使用します。ご利用には事前にExcelのセキュリティ設定（マクロの有効化）が必要となりますので、必ずセキュリティ部門にご確認の上、設定いただきますようお願いいたします。(15、16ページ参照)

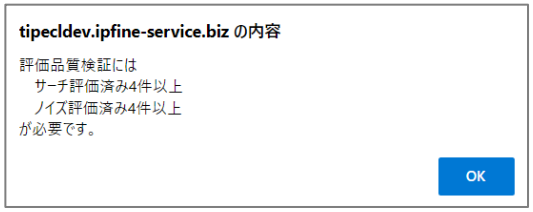
評価品質自動検証　～操作手順

①タイトル内の評価済全件を対象にする場合は、サブメニュー内「評価品質自動検証」から、
タイトル内で条件を指定し、特定の評価済特許を対象にする場合は、特許の検索画面内の「評価品質自動検証」から検証を行います。

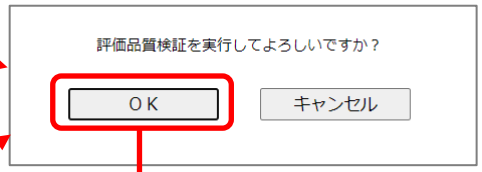
タイトル全件を対象にする場合

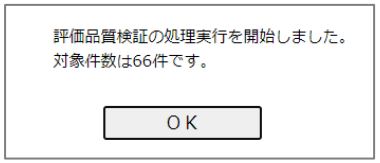
検索結果を対象にする場合

※処理対象の中に、評価済、ゴミそれぞれ最低4件ずつ含まれていることが条件です。条件を満たさない場合は以下のようなメッセージが出て処理できません。



※未評価が含まれている場合は対象外として処理を続行します。
※データがブランクのときは「空白」の文言に変えAI解析しますので、できるだけデータを揃えてご利用ください。

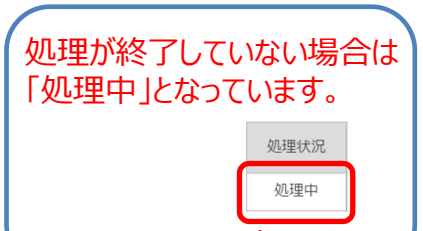




処理開始後はログアウトしても問題ありません。
処理の終了はメールでお知らせします。

評価品質自動検証　～操作手順（続き）

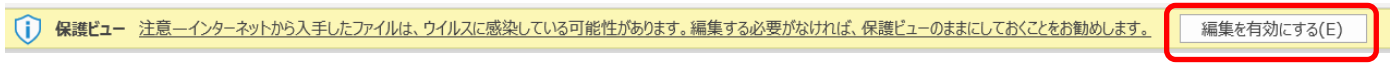
②処理終了のメール受信後、AI判定履歴を確認すると、処理状況の表示が「ダウンロード」になっています。
ここをクリックして、Excelファイル（マクロ付）をダウンロードします。

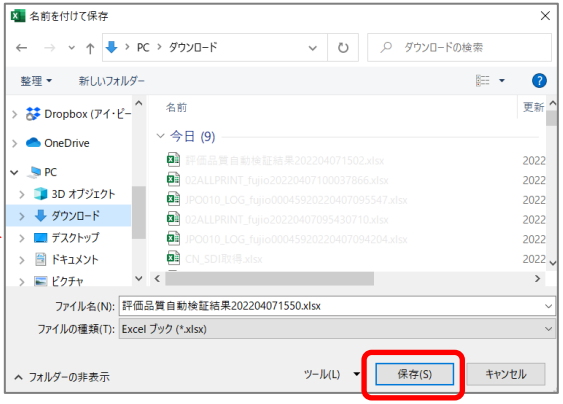


評価品質自動検証　～操作手順（続き）

③ダウンロードしたExcelファイル（マクロ付）を開き、「評価品質自動検証」ボタンをクリックすると、
検証が始まります。（マクロが実行されます。）

※「保護ビュー」のまま「評価品質検証」をクリックしても何も起きません。まず「編集を有効にする」をクリックしてください。





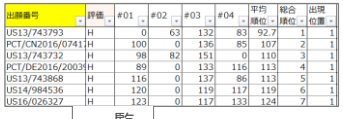
処理が終了すると、ファイルの保存画面が表示されますので、
任意の場所に保存してください。

④保存したExcelファイルが検証結果のファイルです。開いてご確認ください。

混同行列、グラフ

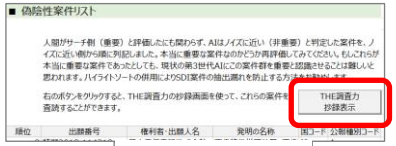
グラフ

案件リスト



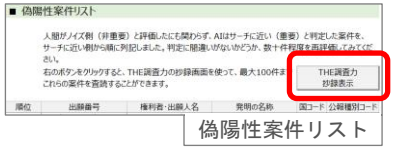
一覧

偽陰性案件リスト



偽陰性案件リスト

偽陽性案件リスト



偽陽性案件リスト

偽陰性／偽陽性案件リストから、ワンクリックで、対象案件をTHE調査力で表示することができます。評価の見直しに直結！（THE調査力へのリンク件数は上限100件。）

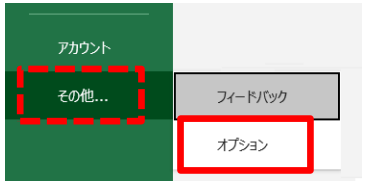
評価品質自動検証　～事前設定

Excelのセキュリティ設定（マクロの有効化）

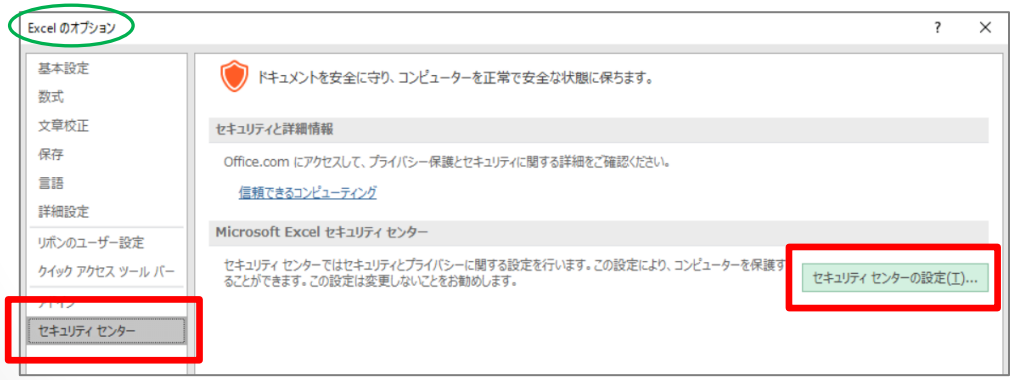
※必ずセキュリティ部門にご確認ください。

①Excelを起動し、メニューバーの「ファイル」を選択します。

②「オプション」を選択します。　画面の大きさによって、「その他」の中に含まれる場合があります。



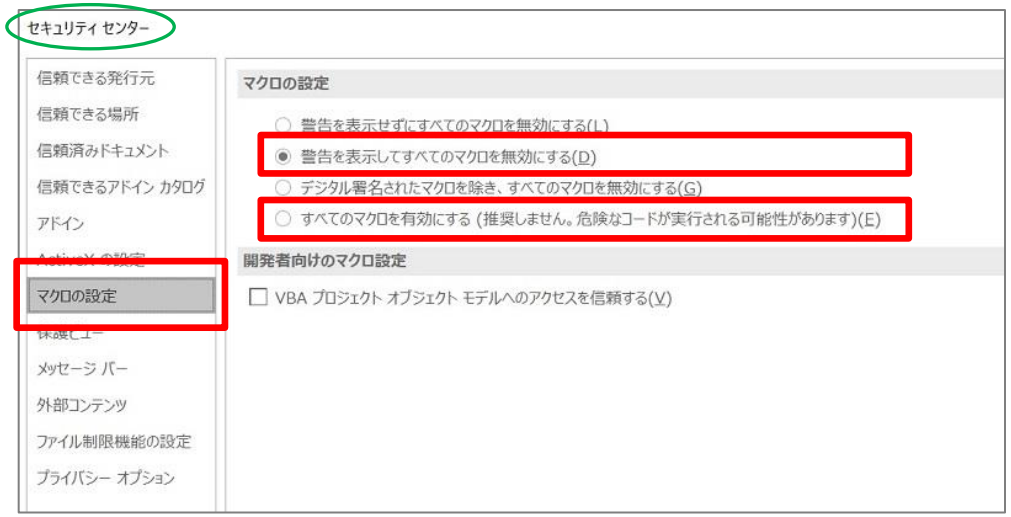
③「セキュリティ センター」の「セキュリティ センターの設定」を選択します。



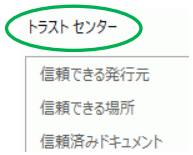
※Excelのバージョンによって「セキュリティ」を「トラスト」に読みかえてください。

評価品質自動検証　～事前設定（続き）

④「マクロの設定」を選択し、「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」または「すべてのマクロを有効にする」を選択します。　※設定内容はセキュリティ部門にご確認ください。



※Excelのバージョンによって「セキュリティ」を「トラスト」に読みかえてください。



⑤「OK」で設定を保存します。

（参考）k分割交差検証法について①

・k分割交差検証法は、対象の特許データをk個にランダムに分割（2～8）します。
・k個のデータはそれぞれ順番に検証セットとして使われ、残りのデータセットは
学習セットとしてモデルをあてはめるのに使用されます。
・合計で、k個のモデルがあてはめられ、k個の検証結果が得られます。
※評価品質自動検証では、4分割で行います。

（参考）k分割交差検証法について②

＜検証例＞

1G

表3		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
ユーザ評価	A	9	90%	1	10%
	B	17	85%	3	15%
	ゴミ	60	20%	240	80%

2G

表3		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
ユーザ評価	A	8	80%	2	20%
	B	18	90%	2	10%
	ゴミ	55	18%	245	82%

3G

表3		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
ユーザ評価	A	7	70%	3	30%
	B	17	85%	3	15%
	ゴミ	62	21%	238	79%

4G

表3		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
ユーザ評価	A	9	90%	1	10%
	B	17	85%	3	15%
	ゴミ	50	17%	250	83%

＜AI判定結果の集計表示＞

4つの平均値

		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
ユーザ評価	A	9	90%	1	10%
	B	18	90%	2	10%
	ゴミ	57 偽陽性	19%	243 正解	81%

正解　偽陰性

判定の結果、偽陰性/偽陽性の特許を再評価することで、評価品質を効率的に再確認することができます。AIは品質に寄与します。

（参考）k分割交差検証法について③

判定結果をどのように評価するのかがとても大事なポイントになります。
当社では、「混同行列」を用いて評価します。この活用の仕方について解説します。

当社では、クリアランス調査の場合、関連特許の判定は100%を目指します。

＜検証例＞

		Deskbee判定			
		サーチ		ノイズ	
社内評価	関連	10	100%	0	0%
	参考	18	90%	2	10%
	ノイズ	57	19%	243	81%

正解　偽陰性　偽陽性　正解

社内評価とAI判定のどちらが正解なのか再評価の対象となります。
社内評価が正解の場合は、教師特許の見直しが必要です。

教師特許に類似し判定順位が高いにもかかわらず、社内でノイズとした特許です。
見直し優先度の高いノイズ特許の再評価で、評価品質を効率的に確認できます。

目標境界値：35%

AIを活用した特許調査の効率化を実現する対象となります。